

令和２年度 農地中間管理事業実績評価書

令和３年６月１５日

（公財）なら担い手・農地サポートセンター
農地中間管理事業評価委員会

【事業実績】

マッチング面積は年々増加傾向で、令和２年度は目標面積の１００ｈａを大幅に超えるなど、事業実績は良好であると評価できる。また、野菜作を目的とした受け手への転貸の増加は、水稻作と比べるとマッチング面積増への効果は小さいと考えられるが、農業生産額増に対し貢献しているといえる。

令和３年度も目標面積達成に向けて関係機関と連携の上努力することを期待する。

【事業推進体制】

事業推進体制は、年々整えられてきており、今後も体制の維持をお願いする。市町村・農業委員会や土地改良区、県と積極的な関わりを構築しており評価に値すると考える。また、市町村マネジメントチームのメンバーに、地元のきめ細かな情報と全国の広範な情報をもつＪＡが新たに加わるということなので、今後とも関係機関と連携し、マッチング活動をより充実させてもらいたい。

【制度周知】

昨年度の評価委員会で、委員より提案した出し手・受け手の声をパンフレットに掲載する旨が、実際に新しいパンフレットに反映されている。また、ＳＮＳを活用した新たな取り組みを行う等、積極的に広報活動が行われている。

今後とも、ＳＮＳ活用の効果や広報活動の分析を行い、より効果的な広報活動を模索してもらいたい。

【事業推進方法】

土地利用型作物を指向する受け手に転貸してマッチング面積の増加を図るとともに、施設野菜など労働生産性の高い品目を指向する受け手を中心にマッチングして県内農業生産額の増加を図ることも必要で、地域の実情に見合った活動をしていくことが重要である。

今後は、地域別・作物別に分析を行い、奈良県農業の発展に向けより良い推進方法を見いだすよう今後とも期待したい。